7.					(2021年度)		業科目	環境人間]	
科目基礎	工業高等 磁情報	13133 124	開講生		,				
科目番号		0088			科目区分		専門/選択	7	
授業形態			講義						
開設学科			ェクトデザイン	対象学年	-13297	専2			
開設期	l	後期	<u> </u>	1144	週時間数		2		
教科書/教材 自作プリン			リント	 ント		, <u> </u>			
担当教員		大和 勃							
到達目		J (1H 3)	%-г⊔						
ルーブ	リック		TM+0+6+\		1#10# 45 to 701 to			+=0+1)
			理想的な到達レベルの目安		ベルの				
評価項目1		各種物理域	各種物理環境要因に対する人間の 感覚器の機構が適切に説明できる		各種物理環境要因に対 感覚器の機構が説明で		する人間の 各種物理環境要因に対する / 感覚器の機構が説明できない		
評価項目2			各種物理環	各種物理環境要因に対する人間の 心理反応の特徴が適切美説明でき		各種物理環境要因に対する人間の 公理反応の特徴が説明できる		各種物理環	境要因に対する人間の 特徴が説明できない
評価項目3			健康性。	人間の身体的特徴に基づく安全性 ・健康性・快適性に関する技術・ ・健康性・快適性に関する技術・ 工夫を適切に説明できる 工夫を説明できる		性に関す	びく安全性 ける技術・ ・健康性・快適性に関する技術・ 工夫を説明できない		
学科の	到達目標	項目との	関係						
JABEE 璟	環境都市(D		D学習・教育目標	票 (SC)					
教育方法	法等								
概要		一付ける	健康, 快適な生 工学の観点から ことを目的とす のひとつとする	活環境を計画するには, , 音, 熱, 空気等の物す る. 本科目は, 設計・i	人間と様々な物理 里的環境要因と人間 計画分野における4	型的環境 間の生理 ドヤリア	要因との関係 ・心理的な[アップに役]	系を理解する 関係について 江つ知的探究	必要がある.本科目で の基本的な知識を身に 心を芽生えさせること
授業の進	め方・方法	講義を に着目 ために	基本とする. 後 し, その感覚器 考案された技術	半に学生によるプレゼンの構造と特徴(性差,カ	ン発表を行う. プレ 川齢差, 動物と人間	/ゼンテ 間の差な	ーションのP どによる特征	内容は, 人間 数) を説明し	の感覚器のどれか一つ , さらにその差がある にそれまでの理解度を
		測る中	間問題演習を実	なここまこめたものを1 施する.	也字生に対して紹介	「するも	のである. ま	まに, 中间期	TIC CITES CONTAINS C
 注意点		測る中	間問題演習を実	なここまこめたものを1 施する. った評価で100点中60;			のである.	はた、中间期	
	属性・履	測る中 下の「	間問題演習を実 評価割合」に従	施する			のである. き	たた,中间期	THE CALLS COPERING C
授業の	属性・履行	測る中 下の「 修上の区	間問題演習を実 評価割合」に従	施する. った評価で100点中60;	点以上達成で合格。	とする.	のである.		験のある教員による授
授業の	属性・履	測る中 下の「 修上の区	間問題演習を実 評価割合」に従 分	施する. った評価で100点中60;		とする.	のである.		
授業のI □ アク:	ティブラー:	測る中 下の「 修上の区	間問題演習を実 評価割合」に従 分	施する. った評価で100点中60;	点以上達成で合格。	とする.	のである.		
授業のI □ アク:	ティブラー:	測る中 下の「 修上の区	間問題演習を実 評価割合」に従 分	施する. った評価で100点中60;	点以上達成で合格。	とする.	のである. 言		
授業のI □ アク:	ティブラー:	測る中 下の「 修上の区 ニング	間問題演習を実評価割合」に従分 □ ICT利 □ ICT利	施する. った評価で100点中60;	点以上達成で合格。 □ 遠隔授業対	とする. 応 週ごと 環境要	この到達目標	□ 実務経	
授業のI □ アク:	ティブラー:	測る中 下の「 修上の区 ニング 週 1週	間問題演習を実評価割合」に従分 □ ICT 利 授業内容 環境人間工学	施する. った評価で100点中60。 用 ・の概要 環境要因と人	点以上達成で合格。 □ 遠隔授業対	とする. 適ごと 環境の	cの到達目標 配因の種類・ なてせつめい	□ 実務経 概要とそればできる	験のある教員による授
授業のI □ アク:	ティブラー:	測る中 下の「 修上の区・ ニング 週 1週 2週	間問題演習を実評価割合」に従分 □ ICT 利 授業内容 環境人間工学	施する. った評価で100点中60g 用 	点以上達成で合格。 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ □ 遠隔授業対	とする. 適ごと 環境要 につい 人間の	で で で で せ つ か て せ つ め い で も で も で も で も で も う も う い う う り う り う り う り う り う り う り う り う	□ 実務経 概要とそれに できる ついて説明で	験のある教員による授 三対応する人間の感覚器
授業のI □ アク:	ティブラー:	測る中 下の「 修上の区 ニング 週 1週	間問題演習を実評価割合」に従分 □ ICT 利 授業内容 環境人間工学	施する. った評価で100点中60。 用 ・の概要 環境要因と人	点以上達成で合格。 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ □ 遠隔授業対	とする. 週 環 につい	で で で で せ つ か て せ つ め い で も で も で も で も で も う も う い う う り う り う り う り う り う り う り う り う	□ 実務経 概要とそれにできる ついて説明で	験のある教員による授
授業のI □ アク:	ティブラー:	測る中 下の「 修上の区 ニング 週 1週 2週 3週 4週	間問題演習を実評価割合」(こ従分) □ ICT利 授業内容 環境人間工学 人間の目の構	施する. った評価で100点中60g 用 	点以上達成で合格。	とする. 週 環 につい	での到達目標 関因の種類・ かてせつめい D目の構造に D目の構造に	□ 実務経 概要とそれにできる ついて説明で	験のある教員による授 三対応する人間の感覚器
授業のI □ アク:	ティブラー:	測る中 下の「修上の区・ ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週	間問題演習を実評価割合」(こ従分) □ ICT 利 授業内容 環境人間工学 人間の目の構 プレゼンテー 人間の視覚の	施する. った評価で100点中60g I用 Cの概要 環境要因と人 造 1 造 1/人間の視覚の特徴 ション課題説明 プレ 特徴	点以上達成で合格。	ではます。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	での到達目標 を因の種類・ かてせつめい の目の構造に の目の構造に かて説明でき の視覚特性に	□ 実務経 概要とそれはできる ついて説明で ついて説明で ついて説明で	験のある教員による授 に対応する人間の感覚器 できる できる. 人間の視覚特性
授業のI □ アク:	ティブラー:	測る中 下の「修上の区・ ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	間問題演習を実評価割合」(こ従分) □ ICT 利 授業内容 環境人間工学 人間の目の構 プレゼンテー 人間の視覚の	施する. った評価で100点中60g 用 の概要 環境要因と人 造 1 造 1/人間の視覚の特徴 ・ション課題説明 プレ	点以上達成で合格。	とする. 週で現で、人間のの人間のの人間では、人間では、人間では、人間では、人間では、人間では、人間では、人間では、	の到達目標 図の種類・ でせつめい の目の構造に のて説明でき の視覚特性に の評価方法	問題とそれにできる ついて説明でる ついて説明で こついて説明で こついて説明で こついて説明で こついて説明で こついて説明で について説明で	験のある教員による授品 二対応する人間の感覚器 できる できる。 人間の視覚特性 できる。
授業の □ アク: 授業計i	ティブラー:	測る中 下の「修上の区・ ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	間問題演習を実評価割合」に従分	施する. った評価で100点中60g I用 Cの概要 環境要因と人 造 1 造 1/人間の視覚の特徴 ション課題説明 プレー 特徴 i方法について i方法について	点以上達成で合格。	とする. 週で現で、人間のの人間のの人間では、人間では、人間では、人間では、人間では、人間では、人間では、人間では、	の到達目標 図の種類・ でせつめい の目の構造に のて説明でき の視覚特性に の評価方法	□ 実務経 概要とそれはできる ついて説明で ついて説明で ついて説明で	験のある教員による授品 二対応する人間の感覚器 できる できる。 人間の視覚特性 できる。
授業の □ アク: 授業計i	ティブラー:	測る中 下の「修上の区・ ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	間問題演習を実 評価割合」に従 分	施する. った評価で100点中60点中60点中60点中60点中60点中60点中60点中60点中60点中	点以上達成で合格。	とする. 週環境のいる人間のいる人間のの人間で現場である。	の到達目標 因の種類・ こせつめい 自の構造に かて説明でき か視覚特性に の評価方法	□ 実務経 概要とそれにできる ついて説明で ついて説明でる ついて説明では このいて説明では このいて説明では について説明ではついて説明ではついて説明ではついて説明ではついて説明ではついて説明ではついて説明ではついて説明ではついて説明ではついて説明ではついて説明ではついて説明では、	験のある教員による授品がある教員による授品がある人間の感覚器できる。 できるできる。人間の視覚特性できる。
授業の □ アク: 授業計i	ティブラー:	関の中 下の「修上の区 三ング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	間問題演習を実評価割合」に従分	施する. った評価で100点中60g 用 での概要 環境要因と人 造 1 造 1/人間の視覚の特徴 ・ション課題説明 プレーク 特徴 i方法について	点以上達成で合格。	たする. 週環境つ間のの人に 人間の場 人間の場 人間の 人間の 人間の 人間の 人間の 人間の 人間の 人間の 場 大間の 人間の 大口の 大口の 大口の 大口の 大口の 大口の 大口の 大口の 大口の 大口	の到達目標 (四の種類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	歴要とそれにできるついて説明でる ついて説明で (こついて説明で) して説明で (こついて説明で) (こついて説明 (こついて説明) (こついて説明 (こついて説明で) (こついて)	験のある教員による授 一対応する人間の感覚器 できる できる のできる 用できる 用できる
授業の □ アク: 授業計i	ティブラー:	関の中 下の「修上の区・ 三ング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	間問題演習を実評価割合」(こ従分) □ ICT 利 授業内容 環境人間工学 人間の目の構 人間の目の構 プレゼンテー 人間のに強の評価 や問問題演習 人間の耳の構	施する. った評価で100点中60g 用 での概要 環境要因と人 造 1 人間の視覚の特徴 ・ション課題説明 プレー 少特徴 i方法について i	点以上達成で合格。	さる。 週環につ間の 人間の 人間の 人間の 人間の 人間の 人間の 人間の 人間の 人間の 人	での到達目標 (大型のを) ではつめい の目の構造に の目の構造に のではでき のではでき のではでき のでは、	実務経	験のある教員による授品 一対応する人間の感覚器 できる できる できる のできる 同できる 同できる できる
授業の □ アク: 授業計i	ティブラー:	関の中 下の「修上の区・ 一を上の区・ を上のと を上のと を上のと を上のと を上のと を上のと を上のと を上のと	間問題演習を実 評価割合」に任 分 □ ICT 利 授業内容 環境人間の目の構 人間の目の構 人間の目の構 少しで現境の評価 光環境の評価 中間問題項の 中間問題項の 人間の耳の構 人間の耳の構 人間と聴覚の	施する. った評価で100点中60g 用 での概要 環境要因と人 造 1 人間の視覚の特徴 i方法について i	点以上達成で合格。	さまる. 週環に人人間のの 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間	の到達目標 図因の種類・ のでせつめい の目の構造に のて説明でき の視覚特性に の評価方法 の評価方法 の耳の構造に の評価方法	概要とそれにできる ついて説明でる ついて説明で について説明で について説明で について説明で について説明で について説明で について説明で こついて説明で について説明で について説明で について説明で について説明で	験のある教員による授品 二対応する人間の感覚器 ごきる ごきる ごきる 用できる 用できる にきる にできる にできる にできる にできる
授業の □ アク: 授業計i	声ィブラー: 画 3rdQ	測る中 下の 下の 下の 下の 下の 下の 下の 下の	間問題演習を実評価割合」に従分	施する. った評価で100点中60。 用 の概要 環境要因と人 造 1 造 1 人間の視覚の特徴 i方法について	点以上達成で合格。	さまる. 週環に人人間のの 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間	の到達目標 図因の種類・ のでせつめい の目の構造に のて説明でき の視覚特性に の評価方法 の評価方法 の耳の構造に の評価方法	実務経	験のある教員による授品 二対応する人間の感覚器 ごきる ごきる ごきる 用できる 用できる にきる にできる にできる にできる にできる
授業の □ アク: 授業計i	ティブラー:	関の 下の 修上の区 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	間問題演習を実 評価割合」にび 分	施する. った評価で100点中60g 用 の概要 環境要因と人 造 1 造 1/人間の視覚の特徴 i方法について i造 1 i造 2 b特徴 1 i方法について i方法について i方法について i方法について i方法について i方法について i方法について	点以上達成で合格。	さまる. 週環に人人間のの 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間	の到達目標 図因の種類・ のでせつめい の目の構造に のて説明でき の視覚特性に の評価方法 の評価方法 の耳の構造に の評価方法	概要とそれにできる ついて説明でる ついて説明で について説明で について説明で について説明で について説明で について説明で について説明で こついて説明で について説明で について説明で について説明で について説明で	験のある教員による授品 二対応する人間の感覚器 ごきる ごきる ごきる 用できる 用できる にきる にできる にできる にできる にできる
授業の □ アク: 授業計i	声ィブラー: 画 3rdQ	測る中 下の 下の 下の 下の 下の 下の 下の 下の	間問題演習を実施 (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本)	施する. った評価で100点中60。 用 の概要 環境要因と人 造 1 造 1 人間の視覚の特徴 i方法について	点以上達成で合格。	さまる. 週環に人人間のの 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間	の到達目標 図因の種類・ のでせつめい の目の構造に のて説明でき の視覚特性に の評価方法 の評価方法 の耳の構造に の評価方法	概要とそれにできる ついて説明でる ついて説明で について説明で について説明で について説明で について説明で について説明で について説明で こついて説明で について説明で について説明で について説明で について説明で	験のある教員による授品 二対応する人間の感覚器 ごきる ごきる ごきる 用できる 用できる にきる にできる にできる にできる にできる
授業の □ アク: 授業計i	声ィブラー: 画 3rdQ	関の 下の 下の 退 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 113週 113週 113週 113週 113週	間問題演習を実従分	施する. った評価で100点中60g 用 での概要 環境要因と人 造 1 人間の視覚の特徴 でション課題説明 プレー 特徴 i方法について i 造 1 人間 i 造 2 クリー i	点以上達成で合格。	さまる. 週環に人人間のの 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間	の到達目標 図因の種類・ のでせつめい の目の構造に のて説明でき の視覚特性に の評価方法 の評価方法 の耳の構造に の評価方法	概要とそれにできる ついて説明でる ついて説明で について説明で について説明で について説明で について説明で について説明で について説明で こついて説明で について説明で について説明で について説明で について説明で	験のある教員による授品 二対応する人間の感覚器 ごきる ごきる ごきる 用できる 用できる にきる にできる にできる にできる にできる
授業の □ アク: 授業計I	画 3rdQ 4thQ	関 下の 下の 下の 過 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 11週 11週 11週 11週 11	間問題演習を実従分	施する. った評価で100点中60。 用 の概要 環境要因と人 造 1 造 1/人間の視覚の特徴 ション課題説明 プレッ特徴 i方法について 造 2 沙特徴 1 i方法について ション課題発表 1 ション課題発表 2 ション課題発表 2	点以上達成で合格。	さまる. 週環に人人間のの 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間	の到達目標 図因の種類・ のでせつめい の目の構造に のて説明でき の視覚特性に の評価方法 の評価方法 の耳の構造に の評価方法	概要とそれにできる ついて説明でる ついて説明で について説明で について説明で について説明で について説明で について説明で について説明で こついて説明で について説明で について説明で について説明で について説明で	験のある教員による授品 二対応する人間の感覚器 ごきる ごきる ごきる 用できる 用できる にきる にできる にできる にできる にできる
授業の □ アク: 授業計i	画 3rdQ 4thQ	関 下の 下の 下の 過 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 11週 11週 11週 11週 11	間問題演習を実従分	施する. った評価で100点中60。 用 の概要 環境要因と人 造 1 造 1/人間の視覚の特徴 ション課題説明 プレッ特徴 i方法について 造 2 沙特徴 1 i方法について ション課題発表 1 ション課題発表 2 ション課題発表 2	点以上達成で合格。	さまる. 週環に人人間のの 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間	の到達目標 図因の種類・ のでせつめい の目の構造に のて説明でき の視覚特性に の評価方法 の評価方法 の耳の構造に の評価方法	概要とそれにでついて説明でる。 ついて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明	験のある教員による授品 ごさる ごさる ごさる ごさる ごさる こさる にさる にさる にさる にできる にさる にさる にさる
授業の	画 3rdQ 4thQ	関 下の 下の 下の 過 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 11週 11週 11週 11週 11	間問題書 (こまな) 日間 (日間 (日間 (日間 (日間 (日間 (日間 (日間 (日間 (日間	施する. った評価で100点中60。 I用	点以上達成で合格の	さまる. 週環に人人間のの 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間	の到達目標 図因の種類・ のでせつめい の目の構造に のて説明でき の視覚特性に の評価方法 の評価方法 の耳の構造に の評価方法	概要とそれにでついて説明でる。 ついて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明	験のある教員による授品 二対応する人間の感覚器 ごきる ごきる ごきる 用できる 用できる にきる にできる にできる にできる にできる
授業の	画 3rdQ 4thQ	別の区で 1週 10週 10	間問題書 (こまな) 日間 (日間 (日間 (日間 (日間 (日間 (日間 (日間 (日間 (日間	施する. った評価で100点中60。 I用	点以上達成で合格の	さまる. 週環に人人間のの 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間	の到達目標 図因の種類・ のでせつめい の目の構造に のて説明でき の視覚特性に の評価方法 の評価方法 の耳の構造に の評価方法	概要とそれにでついて説明でる。 ついて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明	験のある教員による授品 ごさる ごさる ごさる ごさる ごさる こさる にさる にさる にさる にできる にさる にさる にさる
授業の	画 3rdQ 4thQ	別の区で 1週 10週 10	間問題簿合」にて利 「関題」では、 「関題」では、 「関題」では、 「関題」では、 「関連」では、 「関連」では、 「関連」では、 「関連」では、 「関連」では、 「関連」が、 「関連」が、 「関連が、 「関連」が、 「関連が、 「関	施する. った評価で100点中60。 I用	点以上達成で合格の	さまる. 週環に人人間のの 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間	の到達目標 図因の種類・ のでせつめい の目の構造に のて説明でき の視覚特性に の評価方法 の評価方法 の耳の構造に の評価方法	概要とそれにできるついて説明でるのいて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明について説明について説明について説明について説明に	験のある教員による授品 ごさる ごさる ごさる ごさる ごさる こさる にさる にさる にさる にできる にさる にさる にさる
授業の フクラー 授業計 後期 モデル 分評価割	画 3rdQ 4thQ	別の 下の 下の 下の 下の 下の 下の 下の	間問題簿合」にて利 「関題」では、 「関題」では、 「関題」では、 「関題」では、 「関連」では、 「関連」では、 「関連」では、 「関連」では、 「関連」では、 「関連」が、 「関連」が、 「関連が、 「関連」が、 「関連が、 「関	施する. った評価で100点中60% 用 の概要 環境要因と人 造 1 人間の視覚の特徴 ション課題説明 プレー 特徴 方法について 造 2 上 特徴 1	点以上達成で合格の 遠隔授業対対 遠隔の感覚器 は せン課題のデモ	さまる. 週環に人人間のの 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間	の到達目標 (因の種類・ (の)目の構造に (の)目の構造に (の)目の構造に (の)目の構造に (の)目の構造に (の)目の構造に (の)目の構造に (の)目の構造に (の)目の構造に (の)目の構造に (の)目の構造に (の)回の特徴 (の)回の特徴 (の)回の時で (o)回の時で (o)回	概要とそれにできるついて説明でるのいて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明について説明について説明について説明について説明に	験のある教員による授業できる。
授業計	画 3rdQ 4thQ	別の Pop Pop	間問題簿合」にて利 「関題」では、 「関題」では、 「関題」では、 「関題」では、 「関連」では、 「関連」では、 「関連」では、 「関連」では、 「関連」では、 「関連」が、 「関連」が、 「関連が、 「関連」が、 「関連が、 「関	施する. った評価で100点中60。	点以上達成で合格の 遠隔授業対対 遠隔の感覚器 せい課題のデモー サンマン はいまま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はい	さまる. 週環に人人間のの 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間	の到達目標の 図を関する の目の構造に の目の構造できる のはできるのは の可にできるのは の可にできるのは の可にできるのは の可にできるのは の可にできるのは の可にできるのは の可にできるのは の可にできるのは の可にできるのは のでできる。 のでできるのは のでできる。 のでできるのは のでできる。 のでできるのは のでできる。 のででできる。 のでできる。 のでできる。 のでできる。 のでできる。 のででをできる。 のでできる。 のでできる。 のでできる。 のででできる。 のでできる。 のでできる。 のでできる。 のでできる。 のででき。 のででき。 のででき。 のででをできる。 のでででき。 のででき。 のででをでき。 のでででき。 のでででき。 のででででをでき。 のででをでをでき。 のででをでき。 のででででででででき。 のででででででででででででででででででででででで	概要とそれにできるついて説明でるのいて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明について説明について説明について説明について説明に	験のある教員による授 対応する人間の感覚器 できる できる。 できる 用できる できる できる できる できる できる できる できる
授業のグラスター・デージャン・デーをデーをデーをデーをデーをデーをデーをデーをデーをデーをデーをデーをデーをデ	画 3rdQ 4thQ コアカリ: 合	別の Pop Pop	間問題簿合」にて利 「関題」では、 「関題」では、 「関題」では、 「関題」では、 「関連」では、 「関連」では、 「関連」では、 「関連」では、 「関連」では、 「関連」が、 「関連」が、 「関連が、 「関連」が、 「関連が、 「関	施する. った評価で100点中60。 I用	点以上達成で合格の 「② 遠隔授業対力 間の感覚器 ゼン課題のデモ	さまる. 週環に人人間のの 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間の 人人間	の到達目標 図のでは、 の目の構造にできる。 の目の構造でできる。 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、	概要とそれにできるついて説明でるのいて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明でについて説明について説明について説明について説明について説明に	験のある教員による授 一対応する人間の感覚器 できる できる。 できる のできる のできる のできる できる できる できる できる できる できる のできる